

◎実施目的

Phase1 「安全・安心な大会」のPR

警備及び救護体制を広く情報発信するなど、「安全・安心な大会」をPRすることで、犯罪に対する抑止効果を高めます。

Phase2 警備体制の強化

警備・監視体制等の増強や、大会スタッフ等への危機管理対応等の啓発を行い、不審物・不審人物の早期発見・排除などの防止策を講じます。

Phase3 救護体制の強化

大量の負傷者が出た場合を想定した救護体制の連携・強化や、トリアージの活用など、被害を最小限に食い止める救急・医療対策を講じます。

(危機管理体制の強化)

緊急時に備え、大会運営本部や警備・救護等関係団体、大会スタッフ等関係者間で正確かつ迅速に情報が伝達されるよう連絡体制を強固にします。

◎具体的な対応策

■ Phase1 「安全・安心な大会」のPR

取組1-1 ランナー等による「安全・安心」ムーブメント

「安全・安心な大会」に繋がるイメージワードの入ったリストバンドを作成し、参加ランナー全員に東京マラソンEXPOで配布し、大会当日の着用を促すとともに、ボランティアや監視活動等の協力を要請したコース沿道地域の方々にもリストバンドを着用いただきます。(取組2-3)

リストバンド (安全・安心なイメージカラー 緑色)
個数 65,000個
対象 ランナー、TEAM SMILE (ボランティア)、
審判員、沿道応援など
東京マラソンEXPO2014でも
配布予定。



THE DAY We SMILE
TOKYO MARATHON 2014
SAFE & SECURE

取組1-2 警備・救護体制の情報発信

警備・救護体制に係る情報を大会当日に向け継続的に発信していきます。その際には、各メディアへの協力やSNS等を活用し、犯罪に対する抑止効果を高めるとともに、警備・救護体制の強化について、ランナーや観衆にも理解を求めています。

【主な対象メディア】

東京マラソン共催メディア (読売新聞、日本テレビ、フジテレビ、産経新聞、東京新聞)
都庁記者クラブ、運動記者クラブ
大会公式ホームページ
参加者案内メール
財団公式Facebook、Twitter



■ Phase2 警備体制の強化

取組2-1 警備・監視体制の増強

巡回専属の警備員を増強するとともに、監視カメラを新たに設置し、大会会場内における死角をなくします。

○巡回専属監視員

スタート会場、コース沿道、フィニッシュ会場等の巡回専属監視員を約300人増員



○監視カメラ(11ヶ所)

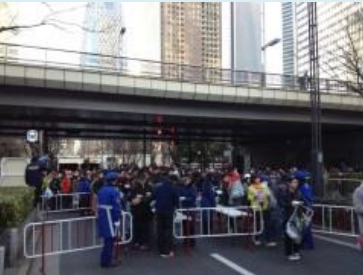
ほか、有明フィニッシュ会場は東京ビッグサイト常設の館内カメラにて監視(300ヶ所)

取組2-2 規制エリア入場の際のチェック強化

規制エリア入場に必要AD(アクレディテーション)カードの発行や、入場の際のチェックを厳しくします。

特に、スタートエリアの入場ゲートにおいては、固定式金属探知機を設置し、入場者の手荷物検査を強化します。

また、フィニッシュエリアにおいては、観覧席(スタンド)及びランナーとの待ち合わせエリア(西展示棟)に観覧者等が入場する際、新たに手荷物検査を実施します。



※スタートゲート手荷物チェック



※固定式金属探知機

○手荷物チェック・金属探知機の実施場所

スタートエリア4ヶ所(ランナー)

各入場ゲート

有明フィニッシュエリア3ヶ所(観客)

観戦スタンド入口(マラソングート2ヶ所)

待ち合わせスペース入口(西展示棟1ヶ所)

取組2-3 コース沿道地域との連携

沿道地域の町会・自治会の協力による監視活動を実施します。

活動の際には、リストバンド(取組1-1)のほか、帽子等目立つアイテムを付けてもらうことで、抑止効果を高めています。(TEAM SAFETY)

○TEAM SAFETY(地域サポートスタッフ) 約40町会、約230人



※ウエアデザイン



※キャップデザイン



取組2-4 大会スタッフ等への危機管理対応等の啓発

大会スタッフ等への事件・事故発生時における危機管理対応等の啓発として、東京湾岸警察署と連携し、テロ対策合同訓練を実施しました。また、各スタッフへの大会運営業務説明会等において対応策の周知をはかります。

【テロ対策合同訓練実施概要】

日時: 2013年12月11日(水)19:00~20:30

対象: 地域団体、大会スタッフ、ボランティア等
29団体 600人が参加

場所: 東京ビッグサイト

内容: 爆発物、有毒ガスなどによるテロを想定
した対処訓練及び講義



■ Phase3 救護体制の強化

取組3-1 フィニッシュ地点の救護機能強化

フィニッシュライン付近における事件・事故に備え、フィニッシュ地点に医師を4人、看護師4人、トレーナー3人を増員します。また、東京ビッグサイト内のフィニッシュ付近のスペースを緊急救護所に転用できるよう資器材を準備します。

取組3-2 医療救護スタッフ等への緊急対応等の啓発

医療救護スタッフ等への事件・事故発生時における緊急対応等の啓発として、普通救命講習会及び医療救護研修会を実施しました。

【普通救命講習会概要】

日時 平成26年1月19日(日) 12:30～16:00
対象 東京マラソン2014参加ランナー、ボランティア等 1,500人が受講
場所 東京ビッグサイト
内容 普通救命講習会カリキュラム

【医療救護研修会概要】

日時 平成26年1月19日(日) 18:00～20:00
対象 救護所構成員(救護主任、看護師、トレーナー等) 260人が参加
場所 東京ビッグサイト
内容 警察署による講話、集団外傷発生(止血方法など外傷対応も含む)時の対応、シナリオトレーニング



取組3-3 救急車両等の配備や協力医療機関の確保

東京消防庁と連携し、ポンプ車や救急車のほか、スーパーアンビュランス(※)を有明フィニッシュエリアに配備するとともに、トリアージ(※)シートをスタート救護所と有明フィニッシュ救護所に、トリアージタグを各救護所に配備し、緊急時の対応に備えます。

(事件・事故の発生時に備え、協力病院を3病院増)

※スーパーアンビュランスとは、救急車として患者搬送を行えるほか、ボディを左右に 拡張することにより、床面が最大約40㎡に広がり、最大ベッド数8床の救護所としての機能を有する特殊救急車です。

※トリアージとは、一般的には、災害時に治療や搬送の優先順位を決定することとされています。



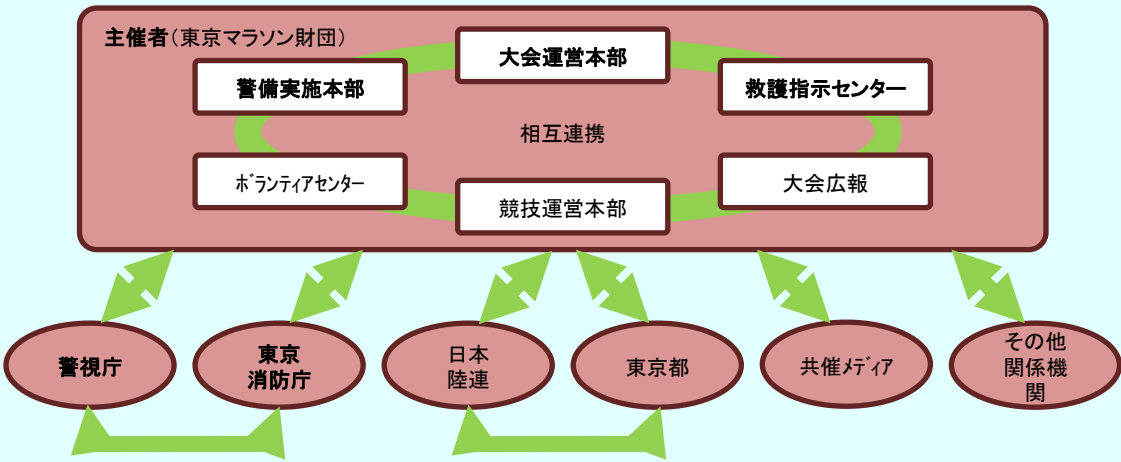
■ (危機管理体制の強化)

取組1 情報連絡体制の強化

状況等をいち早く大会関係者間で共有し、速やかに緊急対応が取れるようにするとともに、大会運営本部において競技継続の可否等、適切かつ迅速な意思決定及び大会関係者への指示が行われるよう、情報連絡体制を整えます。

特に、緊急時における大会運営本部と警視庁、東京消防庁並びに警備実施本部及び救護指示センターとの連携を強化します。

【情報連絡体制イメージ図】



取組2 通信インフラの強化

緊急時における情報伝達手段を確保するため、各拠点(取組1 イメージ図参照)を中心に広域無線を導入し、独自の通信回線を確保します。

※広域無線の例

さらに進化したネットワークシステム

流通業界の通信システムに
大きな進化をもたらす
ボイスパケットトランシーバーの
登場です。

Voice
Packet
Transceiver

ボイスパケットトランシーバーは、革命とも言えるまったく新しい通信システムを構築できます。非常時にも安定的な通信を可能としたデジタル携帯通信網を利用することにより、導入費用、ランニングコストを削減するとともに、より広いエリアでの通信が可能になります。さらに使いやすく、通信機能を大幅に充実させたボイスパケットトランシーバーは、業界のバイオニアとして、これからの流通通信システムを大きく変えていきます。

○広域無線配布場所

大会運営本部と各拠点(12台)
(スタート本部、日比谷10kmフィニッシュ、有明マラソンフィニッシュなど)
救護所、救護指示センターで30台(各救護所2台)